厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患等政策研究事業（難治性疾患政策研究事業））
分担研究報告書

特発性正常圧水頭症の病因、診断と治療に関する研究

研究分担者　**石川 正恒**　洛和ヴィライリオス施設長

研究要旨

iNPH の重症度評価は国際的にはさまざまな評価法が用いられている。定性評価は評価者の主観に影響をうけ、定量評価は標準化が必要で、患者の状態にも影響される。国際的にはあらたな評価法作成の機運が高まっており、我が国も積極的に関与していく必要がある。

A．研究目的
特発性正常圧水頭症(iNPH)の症状の重症度は治療や病態を考える上で重要な要素であるが、我々は評価者によって重症度が異なることを報告した。一方、本年10月にコロンビアで開催された国際水頭症学会で評価法についてのシンポジウムが開催され、筆書も発表を求められた。今回はiNPHに対する今後の評価法のあり方について、自分の考えを述べることとする。

B．研究方法
定性評価法と定量評価法の利点・欠点について検討した。また、国際的な流れについても報告した。

（倫理面への配慮）
患者のプライバシーに配慮し、特定されることのないように配慮した。

C．研究結果
定性評価は主観が入る可能性が高いと考えられた。定量法は計測の標準化が必要であり、患者の状態によってもデータが変わりうることが考えられた。国際学会のシポジウムでは今後、症状の評価についての国際基準作りをすすめることが話し合われた。

D．考察
定性法と定量法の利点・欠点を意識して、新たな評価法を作成することが必要である。

E．結論
iNPHの重症度分類について、新たな国際評価スケールの作成の動きが出ており、我が国も積極的にこの動きに参加する必要がある。

F．健康危険情報
なし

G．研究発表
1．論文発表
1)Ishikawa M, et al: Disproportionately Enlarged Subarachnoid Space Hydrocephalus in Idiopathic Normal-Pressure Hydrocephalus and Its Implication in Pathogenesis. Acta Neurochirurgica Supplement:. 287-290, 2016.
2)Ishikawa M, et al: Early and delayed assessments of quantitative gait measures to imporve the tap test as a predictor of shunt effectiveness in idiopathic normal pressure hydro-cephalus. Fluids and Barriers CNSDOI 10.1186/s12987-016-0044-z2016
2．学会発表
Ishikawa M: Key note: Keynote lecture: Personal questions about CSF absorptions: 第8回国際水頭症髄液疾患学会。コロンビア、2016.10.8

H．知的財産権の出願・登録状況
（予定を含む。）
1. 特許取得
なし